

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択 がん看護CNS必修
担当教員			
◎石田和子、樺澤三奈子、横川史穂子、石岡幸恵、坂田智佳子、桃井明仁、樋口伸子、西村香、長崎揚子、三浦一二美、高池和美			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 2週間以上	
	【担当教員】		
	【氏名】 ◎石田 和子	【所属】 新潟県立看護大学	【研究室】 317
	樺澤 三奈子	同上	【メールアドレス】 kazukoi@niigata-cn.ac.jp
	横川 史穂子	同上	minako-k@niigata-cn.ac.jp
	石岡 幸恵	同上	yokokawa@niigata-cn.ac.jp
坂田 智佳子		同上	ishioka@niigata-cn.ac.jp
桃井 明仁		新潟県立中央病院	sakata@niigata-cn.ac.jp
樋口 伸子		同上 がん看護専門看護師	
西村 香		新潟県立がんセンター新潟病院	がん看護専門看護師
長崎 揚子		同上	
三浦 一二美		長岡中央総合病院	がん看護専門看護師
高池 和美		長野市民病院	がん看護専門看護師
【本学の科目区分】 専門分野			
【D P 1】 ◎ 【D P 2】 ○ 【D P 3】 ○ 【D P 4】 ○ 【D P 5】 ○ 【D P 6】 ◎			

到達目標	1. がんの進展や治療に伴う苦痛を抱えている患者に対して、キュアとケアを融合した支援を実施することができる。 2. がんの薬物療法と放射線療法に対する有害事象等に関わる高度な症状コントロールと、治療を遂行するため必要な医師と協働する医療処置について、卓越した判断やケアを実施することができる。
授業概要	がんの薬物療法や放射線療法を受けている患者の身体症状や有害事象に対するアセスメント能力、高度な臨床判断能力を身につけ、治療の遂行や適切な症状コントロールの支援ができるよう、がん治療医のもとで実習を行う。
授業計画	2週間以上 授業内容 授業形態：実習 学修課題：がんの薬物療法と放射線療法に関わる臨床判断と高度な症状コントロール能力を養う。 の また、当該領域において治療を遂行するために必要な、医師と協働して行う医療処置 判断能力やケア能力を習得する。 学修内容：1. 治療を受ける患者の心と体を整える支援ができる。 2. 薬物療法や放射線療法に関わる症状コントロールと治療遂行の支援ができる。 3. 医学的根拠や臨床判断に基づいた医行為の実施を強化する活動ができる。 【実習期間（臨床での実習時間）】 2週間以上（90時間） 【実習場所】 新潟県立中央病院 新潟県立がんセンター新潟病院 長岡中央総合病院 長野市民病院 ・4~5日/週の割合で実習施設に行き、実践する。 ・フィジカルアセスメント、検査指示、治療計画や必要な医療処置について、担当医師からスーパーバイズを受けながら実習を行う。 ・実習記録をまとめ、教員に提出し指導を受ける 備考：
事前・事後学習	事前学習：適宜指示する。 事後学習：適宜指示する。
評価方法、評価基準	1. 評価対象（得点配分） ・がん看護学実習（高度看護実践）の目標達成度（40%） ・記録、レポート・課題分析能力（20%） ・カンファレンスでのプレゼンテーション（30%）

	<p>・実習準備、実習態度 (10%)</p> <p>2. 評価方法　自己評価および実習指導者からの他者評価を総合した各実習評価表に基づき履修生と面接を行い、目標達成度、記録およびレポート・課題分析能力、実習準備・実習態度について、評価基準をもとに評価する。</p> <p>3. 評価基準 実習要項に掲載した各評価基準に基づく。評定は、A(90点以上100点まで)・B(80点以上～90点未満)・C(70点以上～80点未満)・D(60点以上70点未満)・F(60点未満)の5段階である。</p>
テキスト	教科書は指定しない。
参考図書・資料等	必要に応じて提示する。
受講、課題、資料配布等のルール	長期履修生の場合、実習時期は相談に応じて行う。 実習Vを履修する場合は、実習I～IVを履修し、単位認定されていることを条件とする。
教員からのメッセージ	授業に関する質問等がある場合、メールアドレスにお問い合わせください。
オフィスアワー	石田、樺澤が窓口となり対応する。事前にメールで連絡すること。